

上田仮説サークルニュース		4月例会	2015.04号
編集責任 遠藤 裕		発行2015.5.23	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サングァーデン中野 B-G		TEL 0269-23-2847	携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL 026-227-8555

4月25日(土) 上田中央公館 3F第1・第2学習室
午後3:00～8:00



参加者数 7名 資料総ページ 35ペ

<参加者> 増田伸夫さん、望月久和さん、北村知子さん、柳沢克央さん、池田みち子さん、高見沢一男さん、遠藤裕

はじめに 4月例会の参加者は7名。

望月さんから1本、増田さんから6本、柳沢さんから1本の発表がありました。

望月さんは地元でいろいろな役員をしたり、俳句の句会に出たりと多忙で、久しぶりの参加でした。運営委員をしている「小諸市民大学」の日程や講義内容の紹介をしてくれました。講師陣も非常に充実しています。「どなたでも受講できます」とありますので興味のある講義には是非ご出席を。

増田さんは、<今月のお話し>で、板倉さんの講演1本、牧さんの講演2本、中原さんの講演1本、渡辺さんの講演1本の計5本を紹介してくれました。また、上田仮説出版から出版される予定の『板倉・牧衷ほか：今月のお話2』のもくじも紹介してくれました。板倉さんの講演13本、牧さんの講演12本、中原さんの講演2本、渡辺さんの講演3本を収録する予定のようです。出版されるのが楽しみです。

柳沢さんは、「オモテ」の戦後史観を根本的に揺るがす4冊の本を紹介してくれました。これらの本に書かれている「仮説」は、今後の米軍基地問題と原発問題の展開を見ていけば正しいかどうか判定できるとのこと。今の政治情勢を理解する一助になる本となりそうです。

終了後、いつもの「夢庵」で夕食。



1. 発表資料

① サークルニュース 3月例会 遠藤 裕 (6ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 2月例会 遠藤 裕 (8ペ)
- ② 紙芝居「おくりもの」の感想 坂口富雄さん (2ペ)
- ③ 板倉聖宣：平和教育の基礎理論としての仮説実験授業 増田伸夫さん (4ペ)

－仮説実験授業の源流－

- ④ 板倉聖宣：やりたい人がやりたいようにする 増田伸夫さん（４ペ）
－板倉式組織論・発想法－
- ⑤ 牧衷：殴らせてからやり返すアメリカ 増田伸夫さん（４ペ）
－世界の戦争とテロの歴史－
- ⑥ 中原しげる：名著『人を動かす』 増田伸夫さん（４ペ）
－人間関係論の歴史－
- ⑦ 渡辺規夫：認識は革命的に変化することもあり得る 増田伸夫さん（４ペ）
－認識論から見た仮説実験授業（１）－
- ⑧ 地球が太陽に衝突したらどうなるか 渡辺規夫さん（３ペ）
- ⑨ 紹介：横浜仮説実験授業研究会 例会ニュース2月号 渡辺規夫さん（８ペ）

② 第35回(平成27年度)小諸市民大学のご案内 望月久和さん（１ペ）

平成27年度小諸市民大学の紹介。

望月さんは小諸市民大学の運営委員をされており、今年度の講師と日程を紹介してくれました。全部で10回の講義があります。リーフレットには「今年度は、現在の日本に問われている諸課題について、多様な分野の講師をお招きし、興味深く楽しい講義を企画しました。例年通り小諸高校での音楽会もごさいます。どなたでも受講できますので是非ご参加下さい。」とあります。

第35回(平成27年度)小諸市民大学のご案内

- 日 程／7月17日(金)～9月25日(金) 全10回
- 場 所／小諸市民公民館（第8回のコンサートのみ小諸高校音楽ホール）
- 時 間／午後7時から9時まで(第1回講座開講式は午後6時30分から、第10回講座は午後6時45分から)
- 受講料／3,000円(資料、報告集代)
- 申 込／小諸市民公民館(TEL 23-8880)まで
- *講師、講演題目等について、一部変更する場合がございます。
- *第8回「室内楽の夕べコンサート」は、受講者以外の方も参加できます(参加費1,000円)

回	期 日	講 師 (敬称略)	講 義 題 目
1	7月17日 金	湯浅 誠 (法政大学)	民主主義と格差・貧困問題
2	7月24日 金	保坂 修司 (日本エネルギー経済研究所)	イスラム国の“なぜ”
3	7月31日 金	大橋 春美 (飯田市立山本小学校)	二つの国の間で － 中国帰国二世という経験から －
4	8月 7日 金	浜 矩子 (同志社大学大学院)	どうなる？日本と世界の経済 － 一人ひとりが大事にされてこそ経済 －
5	8月21日 金	三宅 康幸 (信州大学)	信州の火山と防災
6	8月28日 金	千川 圭吾 (信州大学)	省エネ社会と青色発光ダイオード(LED)
7	9月 4日 金	塚田野野子(東京地図研究社)	地図力を養おう
8	9月11日 金	羽生田聖子(フルート)・柳沢実花(オーボエ)・今井麻耶(ピアノ)	フルート・オーボエ・ピアノによる室内楽の夕べ
9	9月18日 金	池田 義雄 (タニタ体重科学研究所)	タニタ式6つの健康習慣
10	9月25日 金	益子 輝之(歴史民俗学研究者)	大河ドラマ『真田丸』の虚と実

★小諸市民大学は今年で35周年を迎えます。以下のような記念事業を現在企画中です。ご期待下さい。
日時：11月8日(日) テーマ：「アジアと日本のこれからを考える」

(望月さんは、いかに若い人につなげていくか、受講生をどう増やすかが課題と話されていました。運営委員が若返ること、宣伝やポスター・チラシなどを地元の高校に依頼するなど、意見が出されていました。いろいろな分野にわたっての専門家による講義で、全体として非常に充実した内容になっているようです。「どなたでも受講できます」とありますので、興味のある方は是非受講を。 エンドリ)

③ <板倉・牧ほか：今月のお話2>もくじ 増田伸夫さん (1ペ)

上田仮説出版から出版される予定の『板倉・牧ほか：今月のお話2』の目次の紹介。

＜板倉・牧ほか：今月のお話2＞もくじ	
＜はじめに＞	
I	板倉聖宣13篇
1.	板倉1：平和教育の基礎理論としての仮説実験授業 (仮の源流)
2.	板倉2：やりたい人がやりたいように (板倉式組織論・発想法)
3.	板倉3：＜仮説実験授業の論理＞で考える (板倉思想の成立と発展)
4.	板倉4：仰せ出され書は個人主義 (明治維新が近代化をもたらした)
5.	板倉5：最近起こった科学革命 (党派性と真理)
6.	板倉6：日本の教育効果の実情 (教育物理学と授業科学1)
7.	板倉7：間違えながら正しい道を行く (教育物理学と授業科学2)
8.	板倉8：なぜ勉強するのか? (高校教育と楽しい授業1)
9.	板倉9：大衆にとってどんな意味があるのか (高校教育2)
10.	板倉10：子どもたちが本当に求める教材 (高校教育3)
11.	板倉11：古代原子論がわかれば物理学がわかる (科学史研究1)
12.	板倉12：大衆準拠の教育 (科学史研究2)
13.	板倉13：子どもたちが応援団になってくれる授業 (発想の転換)
II	牧衷12篇
14.	牧1：殴らせてからやり直すアメリカ (世界の戦争とテロの歴史)
15.	牧2：産業の寿命と企業の寿命 (産業の寿命1)
16.	牧3：技術の系譜 (産業の寿命2)
17.	牧4：レーニンの『帝国主義論』の誤り (産業の寿命3)
18.	牧5：お金は民主主義の始まり (室町時代と貨幣経済)
19.	牧6：エコノミクスからエコロジー (生物学と経済学1)
20.	牧7：サンダーバードの戦略 (生物学と経済学2)
21.	牧8：企業の経営戦略 (生物学と経済学3)
22.	牧9：戦鬪に勝って占領で負ける (民主主義が根付く下地)
21.	牧10：受け入れる側の社会的基礎 (ノウハウ・風土・文化・下地)
21.	牧11：againstの運動からforの運動へ (革命主義と修正主義)
21.	牧12：僕がものを考えるときのくせ (牧衷式発想法)
II	中原しげる2篇・渡辺規夫3篇
26.	中原1：名著中の名著『人を動かす』(人間関係論の歴史)
27.	中原2：根も葉もあるかのような話 (オオカミに育てられた子)
28.	渡辺1：認識は革命的に変化することもあり得る (認識論1)
29.	渡辺2：性質をもとに考えると予言できない (認識論2)
30.	渡辺3：板倉さんと「たのしい勤勉」(認識論3)
＜あとがき＞	

(3月に『牧衷：今月のお話』が出版されました。それに続く第2弾、『板倉・牧ほか：今月のお話2』の目次の紹介です。一つの話題が4ページに編集されており、とても読みやすくなっています。印刷して製本をするだけの段階になっているとのことで、出版されるのが楽しみです。エンドリ)

<以下④～⑧はの増田さんの「今月のお話」で増田さんの書かれたあとがきを紹介>

④ 板倉聖宣：<仮説実験授業の論理>で考える 増田伸夫さん（4 ペ）

－板倉思想の成立と発展－

上田仮説出版『牧衷運動論シリーズ7 学生運動と仮説実験授業の源流』「板倉聖宣 談話 板倉思想の成立と発展－仮説実験授業提唱の頃－」より増田さんが再編集。

<増田さんのあとがき>より

2002年、米子夏の大会のロビーでの談話です。

「現象なんか信用できない」というのは、<人民が「幸せだ」とか言っているのを信用できない>ということなんだ。人民が「幸せだ」と言っているのを信用しないで、どうするんだ。民主主義の根幹に関わる」と板倉先生。

それはたとえば、子どもたちが（なぜかわからないが）「べっこうアメ作りの授業は楽しい」と言う。そしてそこには現象論的な法則性があるのに、それを大事にできないでどうするんだと。そんなことでは人民のための教育の根本的改革などできないではないか、ということでしょうか。

そして、「仮説実験授業の理論から一番学んだのは誰か」と言ったら、<なんてったって俺>なんだよ」と。なぜかともうれしく感じました。（増田）

（三浦つとむさんと武谷三男さんの三段階論（現象論・実体論・本質論）の理解の違いによる衝突。毛沢東の『実践論』と『矛盾論』、劉少奇の話。板倉さんの「俺にとって小学校の先生が三浦さんなんだ。中学校の先生が武谷さんなんだ。高等学校の先生がガリレオやファラデーなんだ。」というお話など、板倉先生の思想が随所に見られる内容です。これは大会のロビーでの談話だそうですが、短い時間によくこれだけの内容のお話がと驚きです。 エンドリ

⑤ 牧衷：産業の寿命と企業の寿命 増田伸夫さん（4 ペ）

－産業の寿命（1）－

上田仮説出版『牧衷連続講座記録集1 仮説実験授業の思想と方法を問い直す』「産業の寿命」より増田さんが再編集。

<増田さんのあとがき>より

カメラ映像機器工業会の統計資料によれば、日本におけるフィルムカメラ（デジタルカメラ以外の静止画撮影カメラ）の生産が2008年の統計から姿を消しました。いま日本で生産しているのはデジタルカメラだけです。産業の寿命に近づいていた日本のカメラ業界は、このデジタルカメラの出現によって息を吹き返した格好です。デジタルカメラによって、日本のカメラ業界はしばらくはやっていけるかもしれませんが、カメラ付き携帯やカメラ付きスマホによる浸食も進んでいるので、これから先は厳し

くなりそうですね。そして、転身に成功したカメラ会社は生き延び、転身できなかった会社はポシヤることになるのでしょう。

(本文には<技術には風土がある><産業の寿命><ケインズの経済学><高橋是清><企業の寿命>という見出しがついています。どの企業にも成長と衰退があり、この間にうまく転身できるように企業は努力しているようです。このような競争社会で活躍できるためには、どんな教育が必要か考えてみることも教員には必要な気がします。 エトワリ)

⑥ 牧衷：技術の系譜 増田伸夫さん（4ペ）

－産業の寿命（2）－

上田仮説出版『牧衷連続講座記録集1 仮説実験授業の思想と方法を問い直す』「産業の寿命」より増田さんが再編集。

<増田さんのあとがき>より

「企業は転身に成功すれば生き延びられる（技術・ノウハウがないものに飛びついても失敗するだけ）。そして転身に成功してきた企業には<技術の系譜>というものがあって、それは地域に根付くのだ」と牧さん。それぞれの企業の<技術の系譜>を見ていくと、本当にうまくつながっていておもしろいです。

さらに（この紙面では省略してありますが）牧さんは<技術の系譜>の例として、瀬戸物（茶射）を作っていた「日本陶業」が、日本で電柱をどんどん立てる頃とうまいこと碍子を作る会社「日本碍子」に転身し、さらに現在は碍子とほとんど同じ構造の自動車プラグを作る会社「NGK（NG：日本碍子）日本特殊陶業」へと転身している、と話してくれました。そしてあのトヨタ自動車もうまいこと転身していたのでした。詳しくは講演記録全文をお読み下さい。

(見出しは<転身に成功すれば生き延びられる><技術の蓄積・ノウハウがないと失敗する><しぶとい企業><技術の系譜>。カネボウとヤマハの系譜はおもしろいです。 エトワリ)

⑦ 中原しげる：根も葉もあるかのような話 増田伸夫さん（4ペ）

－オオカミに育てられた子ども－

上田仮説出版『牧衷連続講座記録集6 民族問題と学校教育の再編成』「オオカミに育てられた子ども」より増田さんが再編集。

<増田さんのあとがき>より

「多くの人々が間違え、騙されるのは、それだけの十分な理由があったからである。そして<オオカミに育てられた子ども>という話は、根も葉もない話ではなく、根も葉もあるかのような話だったのだ」と。まさに板倉誤謬論です。

そういえば、私が昔勤務していた高校の養護教諭のおばさん先生が『水からの伝言』というアヤシイ本を生徒さんに見せては、「だから皆さんも<バカ>なんて言うてはいけないのよ」と説教してるという話が生徒さんを通して私の耳に入ってきたことがありました。そして生徒さんがやりたいというのでいっしょに実験（フィルムケースにご飯を入れ、片方には「バカ」、片方には「アリガトウ」と言ってフタをして経過観察）したことを思い出しました。あのアヤシイ本にしても、STAP 細胞（<卵が人工的刺激でも発生を開始する>からの連想ではないのか？）にしても、根も葉もあるかのような話だったのでしょ。

（<オオカミに育てられた>子どもの話は、本当かどうか。我々（中原さんたち）は、最初から「これはウソだ」と言うために研究を始めたんです、と断って話を進められています。そして、<オオカミに人が育てられるか><養育日記の記述は動物学的に信頼できるか><物的証拠の調査検討>の3つ点からアプローチ。「<オオカミに育てられた子ども>という話は、信頼できない<虚偽の話である>と考えざるを得ない」と中原さんは言っています。教科書や入試問題にもなった話なのに…。 エトワリ

⑧ 渡辺規夫：性質をもとに考えると予言できない 増田伸夫さん（4ペ）

－認識論から見た仮説実験授業（2）－

上田仮説出版『渡辺規夫 楽しい物理教育への道2 講演記録・授業配布プリント』
「仮説実験授業と私」より増田さんが再編集。

<増田さんのあとがき>より

認識における革命的变化を認めるのか／認めないのか。性質をもとに考えるのか／原理・原則をもとに考えるのか。そのときどういう違いが生じるのか。渡辺さんの話も板倉さんのように対立仮説を出して話を進めてくれるので、話に引きづり込まれてしまいます。聞いてる方も予想を立てながら話を聞けるからでしょう。性質ではなく原理・原則をもとに考えると、予言ができるのですね。（増田）

（渡辺さんは次のように言っています。「理科教育で特殊法則を教えるよりはるかに重要なことは、<「原理・原則」をもとにして考えられるようにする>ということ。つまり、<最も基礎的な知識とか概念とかを教えるところにある>。<「原理・原則」をもとにして考える>ということ徹底していくと、「仮説→予想→実験」という形で理論を提出することに。<仮説・実験的のものごとを考える>ことによって間違った判断をしないで済む、正しい判断ができるようになる（間違えを極めて少なくすることができる。）」自分（遠藤）には仮説・実験的のものごとを考えるという訓練がまだまだ不足していると実感しています…。 エトワリ

⑨ **本の紹介－「戦後再発見」双書他既刊全4冊** 柳沢克央さん（1＋資料6ペ）

「オモテ」の戦後史観を根本的に揺るがす書籍群の紹介。

＜柳沢さんの解説＞ ついに発見しました。マスコミや高校の歴史教科書を中心として形成されてきたと思われる、いままでの「オモテ」戦後史観を根本的に揺るがす書籍群です。左派の人、右派の人（すでに「昔風」の言葉になっているようですが）、中道を支持する人、無党派の人、民族主義を支持する人、…いずれにも衝撃を与える内容です。あまりにも意外な結論に対して強い拒絶反応が出ること（または完全な無視）が十分に予想されます。

したがって、この書籍群を読む際には、仮説社の本のキャッチコピーにもあるように「仮説として読む」ということにすればよいと思います。これらの本に書いてある「仮説」が正しいかどうかは、たとえば今後の米軍基地問題と原発問題の展開を見ていけば判定できます。4冊すべてを読んでいるので、現在の私は確信をもってこれらの問題が今後、いかなる展開を見せるかを鮮明に予測できています。

購入しなくても、図書館で借りればよいですし、急ぐ場合にはアマゾンのレビューを読んでみれば、その内容はある程度推測できます。「ネタバレ OK」の方は覗いてみてください。

上田仮説サークルの皆さんなら「そんなことは前からわかっていた」と言うかもしれません。じつは、私は18年位前から、「ひょっとしたら…」という予想は持っていました。それでも、これらの本にある緻密な論証を通勤電車の中で読んで、冷や汗が出てくるほど驚きました。

① 孫崎享著『戦後史の正体 1945－2012』

（創元社・2012年8月10日初版）定価1500円＋税

② 前泊博盛編著『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』

（創元社・2013年3月1日初版）定価1500円＋税

③ 吉田敏浩・新原昭治・末浪靖司共著『検証・法治国家崩壊－砂川裁判と日米密約交渉』

（創元社・2014年7月20日初版）定価1500円＋税

以上3冊は創元社「戦後再発見」双書シリーズ、今後も続刊の予定あり。

④ 矢部宏治著『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』

（集英社インターナショナル・2014年10月29日初版発行）定価1200円＋税

（④の本については、「既刊「戦後再発見」双書シリーズ3冊のダイジェスト版の趣あり。4冊の中では記述が最も簡明であり、高校生でも読める。時間がなければこの本だけでも手に取ってみるとよい。」と柳沢さんは言っています。これらの本は、日米の関係を戦後史から理解することのできる絶好の本のようです。本に書いてある「仮説」の検証は、米軍基地問題・原発問題の今後の展開によってできるとのこと。また、本の紹介に関連した新聞記事も紹介してくれました。 エドワリ

あとがき このところ増田さんが<今月のお話>として牧さん、板倉さん、渡辺さん、中原さんの講演を再編集したものを紹介してくれています。繰り返して読んでみると、それぞれ奥が深いお話だなと実感しています。中には、是非生徒さんにも読んでもらえるといいなというお話も。近々『今月のお話2』が出版されるようですので、とても楽しみです。



増田さんを真似て<今月の〇〇>というものを自分なりに書いてみたいと思ったりしていますが、なかなか的が絞れず実行にいたっていません。運動量と力積の関係ではないですが、コツコツと時間をかけてできるスタイルでないと長続きはしないと思っています。(エンドリ)

★ 今後の予定 ★

6月20日(土)

7月25日(土)

8月22日(土)